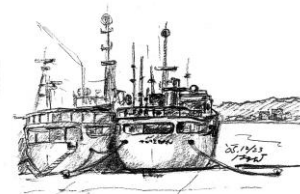


ビキニ被災支援 室戸の会

ニュース 2025年10月15日 No.69

発行 ビキニ被災を支援する室戸の会 太平洋核被災支援センター
連絡先 事務局 宿毛市 088-066-1763(山下) 室戸の会 0887-35-8725(濱田)



ビキニ被災「健康相談会」(主催 高知県健康対策課)

に参加しませんか 11月10日(月)「やすらぎ」13時半～

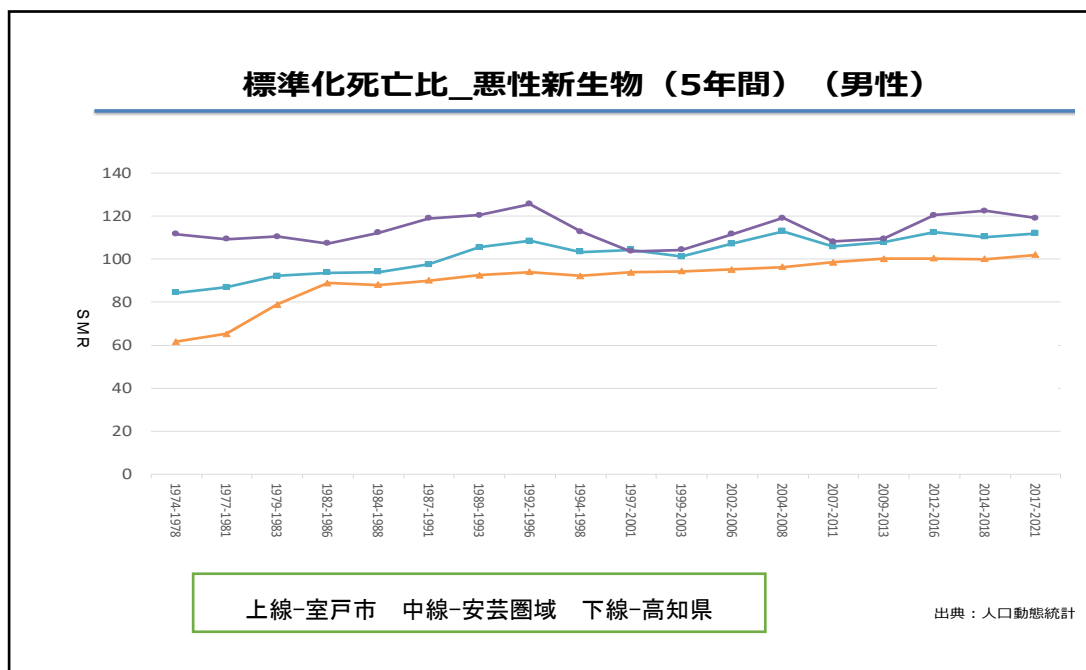
高知県健康対策課は、「太平洋核被災支援センター」や市民からの要求もあり、1954年～1962年のアメリカによるビキニ水爆実験に関連して被害を被った漁民や関連する方々のための「健康相談会」を実施しています。

ご存じのように、室戸は遠洋マグロ漁が盛んで1950年代からはパラオ、マーシャル海域でも多くの漁船が操業していました。その中には空が明るくなったのを目撃したとか、灰が降ってきたのを見たという証言もあります。実際、漁獲した多くのマグロから放射線が検出され、それらは廃棄されています。そういう中で体調を崩す船員の方も多くありました。ガンなども発症し、若くして亡くなる方もありました。

資料を見ましても、室戸市の場合がんで亡くなる方は、県の平均値よりも多いことは明らかになっています。

そういうことが明らかになる中、「健康相談会」がおこなわれるようになったのです。本来は健康診断がおこな

われてしかるべきだとは思いますが、ぜひ参加していろいろな相談をしていけたらと思います。当日は健康講座として講演があり、又参加者との交流会もありますので、参加して実情を交流していきましょう。



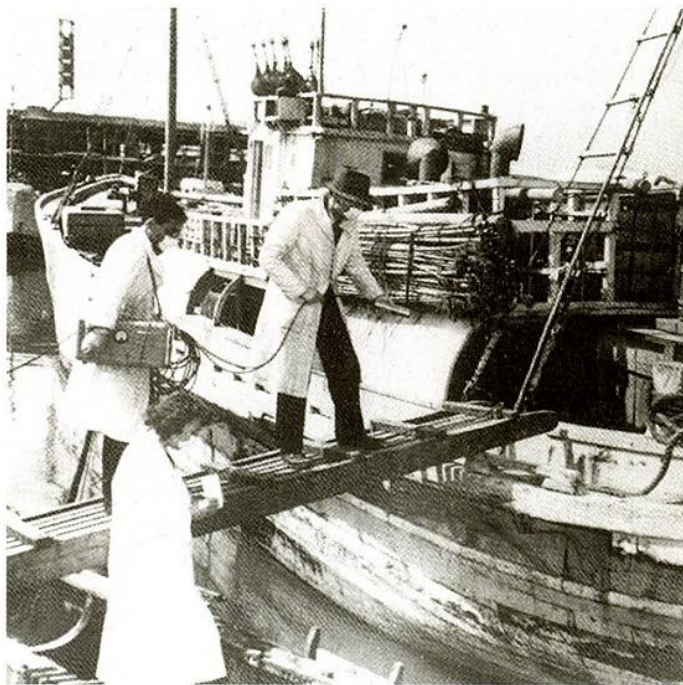
〈高校の社会科の教科書の変化〉

教科書におけるビキニ事件の記述は長い間、被害を被ったのは第五福竜丸だけであるかのような記述でした。中学校の教科書はいまだにそうなっています。

東京書籍に問い合わせますと、高校の「歴史総合」の教科書には、右の写真のように「この時被曝した日本漁船は他にも 100 隻近くあった」と第 5 福竜丸以外にも被ばくした船があったことが書かれています。このような記述は、若干違いますが 1995 年発行のものからあったようです。

1995 年のものには「日本のマグロ漁船第五福竜丸をはじめ、数百隻の船が被曝した。」と書かれています。その後 2013 年発行の教科書の指導書には「アメリカの水爆実験による「死の灰」を浴びた漁船は 98 隻、漁獲から放射能が検出されたマグロ漁船は全国で 856 隻を数えた。」とあります。

2017 年には「日本史 A」から「歴史総合」に代わっています。そして、2014 年に NHK や太平洋核被災支援センターの情報開示請求によって外務省、厚生労働省が資料を開示したことを受けて「日本政府が当時の調査資料を日本で公開したのは 2014 年のことだった。」という記述が加わったとのことでした。



5 被曝した第五福竜丸 アメリカのビキニ水爆実験で被曝した第五福竜丸の乗員から死者が出た。このとき被曝した日本漁船はほかに100 隻近くあったが、日本政府が当時の調査資料を日本で公開したのは2014 年のことだった。

◆室戸市市人権大会で「ビキニ事件と室戸のまぐろ船」の講演

8 月 13 日に行われた「室戸市人権教育研究大会」で、「ビキニ水爆実験と室戸のまぐろ船」と題して全体講演が行われました。

主な内容は次のようなものでした。

- (1) 核をめぐる状況
- (2) 室戸の戦争の歴史から学ぶ-滋賀丸事件や戦没者調査など
- (3) ビキニ事件の概略
- (4) まぐろ船と被ばく
- (5) ビキニ事件の再認識から核のない平和な世界へ
- (6) パクスアメリカーナから自立と共存の平和な社会へ



次のような感想をいただきましたので紹介します。今後の課題も見えてくるような感じがします。

〈 感想 〉（一部）

- ・知らないことが多かったので引き込まれていきました。核兵器のない世の中が実現できるように願うばかりです。
- ・ビキニ水爆をわかりやすく学んで、戦争や他の事についても正しく知ることの大事さを痛感しました。
- ・生まれ育った室戸岬の漁業がこのような被害に遭っていたのに驚いた。人権侵害の恐ろしさ人権意識や平和の大切さを改めて思った。
- ・ビキニ水爆実験について、自分が知らない多くのことを知ることができた。やっぱり核や戦争はなくなってほしいと思った。核がなくなるためにはまずは多くの人にこういったことを知ってもらうことが大切だと思った。
- ・マーシャル沖でマグロ漁に行って被爆した船員の方々について知れて良かったです。アメリカの核実験の回数の多さも知らなかったです。30年後核爆弾がなくなるといいなと思いました。
- ・新聞などでは少し読んだことがあったが、今日のお話でビキニの核実験のこと、その近くで室戸の船がたくさん操業していたこと、そこで働いていた人がたくさんいたことを初めて知りました。そして働いていた人はそんな思いを持って生きてきたんだと思うと、やはり核のない平和な世界が一番だと思いました。
- ・地元、室戸の船員さんのこと、人知れずなくなっていく人たちのことを中学生とともに伝えていく取り組みを進めていきたいと思います。
- ・ビキニ水爆実験による、様々な問題について学び深く考えさせられました。豊かで平和な海、核のない平和な社会の実現、安心できるのはいつでしょうか。
- ・ビキニ水爆実験のことについては、室戸の高齢者のかたも今では詳しいことを知っている人も少なく、私も詳しいことは知らなかったですが、今日の講演で詳しく説明してもらえて、さらにもっと知りたいと思った。また何より健康被害の問題についてもとても考えさせられた。
- ・先生の話は何度も聞いているが当時の様子が目に浮かぶようにリアルで想像しやすいお話だと思う。ぜひ小中高生にも聞いてもらいたい内容である。今後の日本を担うのは若い世代の人たち、未来ある子ども達に真剣に考えて欲しい内容であった。

「世界核被害者フォーラム」(10/5～6 於広島)でビキニ事件と室戸のまぐろ船の被ばくについて 下本さんが報告

「核兵器廃絶をめざすヒロシマの会」「核のない世界のためのマンハッタン・プロジェクト」の共催で10/5～6に広島で「世界各被害者フォーラム」がおこなわれました。参加者は実数で約300人。この会には、広島や長崎の被団協の方は勿論、マーシャルの島民やオーストラリアの核実験場の近くに住む先住民の方、ウラン採掘現場のあるコンゴからの参加など世界各地から核の被害者が集まり交流されました。高知から第7大丸の船員の遺族である下本節子さんが参加し、実情を報告しました。室戸の漁船の被ばくについては、世界的にはあまり知られておらず、とても注目されていました。



ビキニ環礁水爆実験に関連し健康不安を 抱かれている方のための健康相談会

1946～1958年に米国によるマーシャル諸島での水爆実験が行われ、第五福竜丸の乗組員23人が被ばくしました。

同時期、周辺海域には複数の日本の漁船等が操業しており、こうした船舶の乗組員の中には、健康不安を持ちながら操業や生活を続けられた方がいらっしゃいます。

高知県では、こうした方の健康不安を軽減するために高知県在住の元乗組員の方が地域の医師等による健康相談(無料)を受けることができる健康相談会を実施いたします。

健康相談会への参加をご希望される方については、詳細及び手続き等についてご案内しますので、高知県健康対策課に電話またはメールにてご連絡ください。

※会場までの交通費について、一部補助を行います。

- ＜日時＞ 令和7年11月10日（月）13:30～15:00
＜場所＞ 室戸市保健福祉センターやすらぎ 2階会議室
＜内容＞ ・健康講座
・交流会
・個別健康相談



問合せ・申し込み先：
高知県健康政策部健康対策課
担当 吉松、北村

TEL 088-823-9678

E-mail 130401@ken.pref.kochi.lg.jp



高知家の健康